

## 高等部 職業国語科 A1 グループ 学習指導案

学習指導者 佐藤正明

1 日 時 令和2年7月22日(水) 第2校時

2 場 所 家庭科室

3 題 材 指示語(こそあど言葉)を聞き分けよう

### 4 題材について

- (1) 日常会話において「ちょっと、これを手伝って」「あれを取って」など、曖昧な言葉はよく使われるが、他者とコミュニケーションを図る上で、言葉の意味が十分に理解できずに困る場面が多く見られる。特に仕事の指示で曖昧な言葉が使われると、指示通りに行動することが難しくなり、仕事に支障をきたす場合がある。曖昧な言葉は内容を考えたり、暗黙の了解を理解・想像したりする必要があるため、すべてを理解することは難しく、話し手としては曖昧な言葉を多用せず、具体的に話すことに留意する必要があるが、曖昧な言葉の中でも使い方に決まりがある言葉については、決まりを学習することで聞き手として言葉の意味を理解しやすくなると考える。

「これ、それ、あれ、どれ」といった指示語(こそあど言葉)は、曖昧な言葉の中でも使用頻度が高い言葉であり、仕事の指示においてもよく使われている。一方で、直接目に見えるものを指し示す現場指示においては使い方の決まりが明確であり、決まりを理解できれば指し示すものが何であるか分かる場面が増えると考えられる。また、指し示すものが分からない場合でも確認や質問を具体的にすることで明確な返答をもらうことができる。そのため、指示語が指し示すものを理解することで、正確に指示の内容を聞き取ったり、分からないことを具体的に質問したりすることが可能になり、卒業後、仕事上での作業の正確さやミスの軽減、素早さにつながると考え、本題材を設定した。

- (2) 本グループは男子5名(1年生1名, 2年生1名, 3年生3名), 女子1名(1年生)で構成されている。どの生徒も日常的に会話でのやりとりが可能であり、授業場面では指導者の言葉掛けを聞いて行動できることが多い。指示語の理解については、こそあど言葉を使った現場指示を聞いたときに、指さしや手招きなどのジェスチャーがあれば指し示すものを間違えることは少ないが、言葉だけで指示を聞いたときには分からなかったり、間違ったりすることがある。「聞くこと」については、一度に複数の内容の指示を聞いて行動できる生徒から、一つの指示のみを聞いて理解する生徒まで実態は様々である。どの生徒も現場実習や校内実習を通して、職場で指示を正確に聞いて行動することの大切さを理解している。
- (3) 指導に当たっては、指導計画の初期段階に現場指示におけるこそあど言葉の決まりを学習する活動を設定し、決まりをもとに聞き分けができるようにする。決まりは、イラストを加えた一覧表にまとめ、自分で確認できるようにすることで理解を深めたい。その後、実践的にこそあど言葉を聞き分ける活動を設定する。まず、ウォーミングアップの活動として「それ、これ、あれ、どれ」などランダムに言われるこそあど言葉を聞いて、指し示すものがある方向を指さす「こそあどジェスチャーゲーム」を取り入れ、話し手と聞き手の位置関係から指し示すものがどこにあるかを予測する力を養いたい。次に、生徒同士でこそあど言葉を使った指示を出し合う「こそあどドラマ」の活動を設定する。活動では、現在の学校生活や卒業後の生活を参考にして考えたシナリオをもとに演じるロールプレイの中に、こそあど言葉を使ったせりふを取り入れ、生徒同士で指示を出し合うようにすることで、学習した内容を生活の中で活用できるようにしたい。さらに、ロールプレイの中で指し示すものは生徒にとって身近な道具などを用意しておくことで、社会生活送る上で役立つ語彙を増やすことにつなげたい。

## 5 目 標

- ・こそあど言葉の使い方の決まりを理解し、指示語を聞き分けて指し示すものを考え、適切に行動することができる。

## 6 学習指導計画（全8時間）

- 第1次 こそあど言葉の決まりを知ろう . . . . . 2時間  
 第2次 「こそあどドラマ」をしよう（物事・場所編） . . . . . 3時間（本時2/3）  
 第3次 「こそあどドラマ」をしよう（方向・様子編） . . . . . 3時間

## 7 本時の学習指導

### (1) 目 標

- ・物事や場所を指し示すこそあど言葉を聞き分けて、指し示すものを適切な位置から選ぶことができる。

### (2) 準備物

テレビ，パソコン，ポインター，目的カード，スケジュールカード，プレゼンテーションソフト，こそあど言葉一覧表，かご（8色），トレー，タブレット端末，無線スピーカー，せりふカード，カチンコ，視聴者チェックシート，バインダー，視聴者チェック発表用スタンド（聞く人，話し人，こ・そ・あ言葉），自動手指消毒器，シーラー，デジタルばかり，ピーラー，ジャガイモ，パッケージ袋，ポロシャツ，Tシャツ，タンクトップ

### (3) 学習指導過程

学 習 活 動	活動機会・支援環境・授業展開の工夫
1 学習の目的を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示語の学習の目的や、学習の結果としてどのような効果があるのかが分かるように、イラストや文で示した目的カードを黒板に示しながら説明する。</li> <li>・本時や学習全体の流れが分かるように、スケジュールカードを提示する。</li> </ul>
2 「こそあどジェスチャーゲーム」をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームを始める前に、「こそあど言葉一覧表」を黒板に提示することで、使い方の決まりを短時間で確認してゲームに臨むことができるようにする。</li> <li>・一人ずつ交代で出題するように設定することで、話す主体が変わったときにも話し手と聞き手の位置関係から瞬時に指し示すものがある方向を判断できるようにする。</li> <li>・指をさす方向を間違えた生徒がいた場合は、話し手が誰であるかを確認することで、修正できるようにする。</li> </ul>
3 「こそあどドラマ」をする (1) 3人ずつのグループに分かれて ロールプレイに取り組む グループ①（C男，B女，H男） グループ②（J男，K男，L男）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイを演じる生徒には、自分が話すせりふが書かれたせりふカードを渡して話す内容と相手を伝えておくことで、話す相手と指し示すものとの位置を確認できるようにする。</li> <li>・<u>生徒の実態に応じて、2つ以上のこそあど言葉が入ったせりふを聞き分けて行動したり、話し手、聞き手以外の第3者を登場させたりするなど、せりふの内容を変えておくようにする。</u></li> <li>・せりふで指し示されるものは、それぞれの生徒の前と「あ」の距離に当たる5つの位置に合わせて5色に色分けしたかごの中に入れて置くことで、こそあど言葉が指し示すものとの位置関係を視覚的に分かりやすく示すようにする。</li> <li>・かごの中のものには、それぞれのかごの色と同じ色の印をつけておくようにすることで、振り返りの際に自分がどの位置から選んできたかを確認できるようにする。</li> <li>・ロールプレイの中のせりふを聞いて選んだものを入れるトレーを用意しておくことで、せりふを聞いて選んだものとかごの中</li> </ul>

<p>(2) こそあどドラマ視聴者チェックの発表をする</p>	<p>のものを区別できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あ」のこそあど言葉が指し示す位置は2か所にし、せりふを話す生徒の視線を手掛かりにどちらの位置を指し示しているか考えるようにすることで、「あ」の位置の指示語の理解の仕方を学習できるようにする。</li> <li>・臨場感を出すために、シナリオを進行するナレーションは、事前に授業参加者以外の声で録音した音声を無線スピーカーで再生する。</li> <li>・グループ①のロールプレイの中で指し示すものは、作業場面でよく使用される道具を用意することで、今後の作業学習や現場実習で活用できるようにする。</li> <li>・グループ②のロールプレイの中で指し示すものは、買い物場面を想定して様々な種類の衣服を用意し、活動を通して衣服の名称を学習できるようにする。</li> <li>・せりふを聞いた生徒が指し示されたものを選んだ後に、選んだ道具や衣服を使用する場面を演じるようにシナリオを設定しておくことで、道具の使い方や衣服の形状を名前とともに確認できるようにする。</li> <li>・<u>ロールプレイを視聴するグループの生徒には、せりふの中のこそあど言葉が指し示すものがどこにあるかを「視聴者チェックシート」に記入して確認する役割を任せることで、自分が話し手でも聞き手でもない場合でも、こそあど言葉を聞き分けて指し示すものの位置を判断できるようにする。</u></li> <li>・C男とB女の「視聴者チェックシート」には、話し手と聞き手の生徒名やせりふの中のこそあど言葉が書かれた部分を強調しておくことで、要点を聞き漏らさないようにする。</li> <li>・それぞれのグループがロールプレイを終えた後には、視聴していたグループの生徒が、ロールプレイの中で指し示したものがどの位置にあったかを発表する場面を設け、せりふの内容や話し手との位置関係から指し示すものを確認できるようにする。</li> <li>・発表者はロールプレイが行われた場所で、話し手と聞き手の位置や指し示されたものがある位置に視聴者チェック発表用スタンドを置きながら発表することで、他の生徒に分かりやすく伝えることができるようにする。</li> <li>・視聴者チェックスタンドは生徒全員が持つため、発表の前には自動手指消毒器で消毒をすることで、感染症予防対策を行う。</li> <li>・発表者が示す位置が間違っていた場合は、「こそあど言葉一覧表」を示しながら他の生徒の意見を聞き、正しい位置を確認できるようにする。</li> </ul>
---------------------------------	---

(4) 評価規準

- ・ロールプレイで話されるこそあど言葉を聞き分けて、指し示されたものを適切な位置にあるかこの中から選ぶことができる。 (知・技)
- ・ロールプレイを視聴したときに、せりふの中のこそあど言葉を聞き分けて指し示すものがある位置を正しく判断し、他の生徒に伝えることができる。 (思・判・表)
- ・他の生徒のせりふやナレーションを聞きもらさないように、積極的にロールプレイに取り組むことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

資料1 個の実態及び目標

氏名	個の実態	個の目標(評価規準)
C男 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1の会話の中で指示語を聞き間違えることは少ないが、主語が分からなくなると「こ」「そ」の指示語が指し示すものが何か分からなくなることがある。</li> <li>・話し手と聞き手が誰であるかを知り、位置関係が理解できれば、参観者としてもせりふの内容が指し示すものがある位置を判断することができる。</li> <li>・集中が途切れがちで複雑な話は内容を聞き漏らすことが多いが、短い文で大事な部分を強調して伝えることで、話の内容を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの中で「そ」の指示語が入ったせりふを聞き分けて、指し示された道具を適切な位置から選ぶことができる。</li> <li>・ロールプレイを視聴するときに、話し手と聞き手の名前が示されたワークシートを手掛かりに、指し示すものの位置を判断することができる。</li> <li>・ナレーションで自分の名前が話されるのを聞きもらさないように、ロールプレイを演じることができる。</li> </ul>
B女 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こ」「そ」「あ」の指示語を聞き間違えることがあるが、指さしなどの身振りがあれば聞き間違えることは少ない。</li> <li>・話し手と聞き手の位置を把握し、「こ」「そ」「あ」の位置関係をワークシートで確認できれば、指し示すものがある位置を判断することができる。</li> <li>・一度に複数の話の内容を理解して行動することは難しいが、短い文章で要点を絞って伝えることで、内容を理解して意欲的に活動に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの中で「あ」の指示語が入ったせりふを聞き分けて、話し手の視線を手掛かりに指し示された道具を適切な位置から選ぶことができる。</li> <li>・視聴者チェック発表のときに自分が書いたワークシートを確認しながら、チェックスタンドを正しい位置に置くことができる。</li> <li>・せりふの中の指示語一つと道具の名前を聞きもらさないように、ロールプレイを演じることができる。</li> </ul>
H男 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こ」と「そ」の指示語を聞いたときに、話し手と聞き手どちらに近い位置に指し示すものがあるか迷うことがある。</li> <li>・せりふの中の指示語が何であるかに気を付けてロールプレイを視聴し、「こそあど言葉一覧表」を確認すると、指し示すものの位置を判断することができる。</li> <li>・自分の名前がいつ呼ばれるか気を付けてナレーションを聞きながら、活動に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの中で「こ」の指示語が入ったせりふを聞き分けて、指し示された道具を適切な位置から選ぶことができる。</li> <li>・ロールプレイを視聴して、自分が作成したワークシートを「こそあど言葉一覧表」を見て正しいか確認して、指し示すものの位置を判断することができる。</li> <li>・ナレーションで自分の名前が呼ばれたときに、話の内容を聞きもらさないようにして、シナリオ通りに演技することができる。</li> </ul>
J男 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話の中で指示語を聞き間違えることは少ないが、一度の指示で複数の指示語が使われると指し示すものが分からなくなることがある。</li> <li>・せりふの中の指示語が何であるかに気を付けてロールプレイを視聴し、指し示すものの位置を判断することができる。</li> <li>・現場実習を通して、職場の人が話す内容を正確に聞くことの大切さが分かり、ナレーションやせりふの内容に注意して聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの中で「そ」と「あ」2つの指示語が入ったせりふを聞き分けて、適切な位置から指し示された衣服を選ぶことができる。</li> <li>・視聴者チェック発表のときに、チェックスタンドを正しい位置に置いて分かりやすく他の生徒に発表することができる。</li> <li>・指し示されたもの選んだ後の場面で、ナレーションをよく聞いて動作をして、シナリオに合った演技に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>
K男 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こそあど言葉の使い方の決まりはほぼ理解できているが、一度の指示で複数の指示語が使われると指し示すものが分からなくなることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイの中で「こ」と「そ」2つの指示語が入ったせりふを聞き分けて、指し示された衣服を適切な位置から選ぶことができる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手の動きに注目して、せりふの通りに指し示すものを選ぶことができたか判断することができる。</li> <li>現場実習を通して指示語が職場でよく使われる言葉であることを理解し、指示語に注意してせりふを聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視聴者チェック発表のときに、せりふの指示語を聞いて判断した位置を、理由をつけて発表することができる。</li> <li>指し示されたものを選んだ後の場面で、シナリオの内容が相手に伝わるように意欲的に演技に取り組むことができる。</li> </ul>
L男 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こ」と「そ」の指示語を聞いたときに、話し手と聞き手どちらに近い位置に指し示すものがあるか迷い、間違えることがある。</li> <li>せりふを聞いた後に話し手と聞き手の位置関係を整理することで、指し示すものがある位置を判断することができる。</li> <li>現場実習を通して職場の人が話す内容を正確に聞くことの大切さが分かり、分かりにくい言葉に気を付けて話を聞こうとすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロールプレイの中で「そ」の指示語が入ったせりふを聞き分けて、指し示された衣服を適切な位置から選び、第3者に渡すことができる。</li> <li>ロールプレイを視聴するときに、ワークシート上で話し手と聞き手の位置関係を整理し、「こ」の指示語が指し示すものの位置を判断することができる。</li> <li>ナレーションを注意深く聞いてシナリオの流れを理解しながら、こそあどドラマに参加することができる。</li> </ul>

資料2 座席表

